

―農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法GAP―

## ＜2014 年 GAP 普及大賞＞

**国内随一のじゅんさい産地である秋田県三種町が受賞！**

**GAP により高品質化を目指す取り組みが評価されました。**

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、7 月 3 日に GAP 普及大賞の選考委員会を開催し、三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会の取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

### ■ GAP 普及大賞受賞者：三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会（秋田県）

シェア 9 割を占める国産じゅんさいのトップ産地である秋田県三種町が、産地の競争力を高め、より高品質な国産じゅんさいを消費者に届けるため、関係者一体となって GAP に取り組んだことが、地域特産物の活性化における GAP の効果を示すものとして高く評価されました。

安価な中国産じゅんさいの台頭が国内の産地を圧迫していく中で、国産シェア 9 割を占める国産じゅんさいのトップ産地である三種町においても農家数の減少と摘み手の高齢化という事態が起きています。このような状況の中で国産じゅんさいの輸入品に対する競争力を高め、栽培へのこだわりを保持して品質の向上を図り、「安全・安心な国産じゅんさい」というブランドを再構築するため、本地域はGAPに取り組みました。

生産者、JA、町役場、商工会、地元有志等が連携して「三種町じゅんさいの里活性化協議会」を設立し、JGAPの普及をはじめ、摘み取り体験など幅広い活動に取り組んでいます。JGAP認証農場は、平成 25 年 3 月に初の認証を受けて以降、昨年は 9 農場が追加認証され 27 農場に達しており、認証農場のじゅんさいは「JGAPじゅんさい」として販売され、その高品質が消費者から評価され、取引先が拡大しています。また、これらの活動が先導する形で産地全体のGAPに対する意識も高まってきています。

地域特産物における GAP 普及の取り組みが、一層の高品質化を実現し、産地の振興につながるものとして高く評価されました。また、新たに制度化されることになった地理的表示保護制度へ向けた取組みのモデルともなりうると考えられます。

## NEWS RELEASE

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。  
2014 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

迫田登稔（農研機構 中央農研センター 上席研究員）

三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会の取り組みに加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも優劣付けがたい GAP 普及の優良事例です。

### －GAP 普及大賞－

#### ■魚沼コシヒカリの産地における JA と行政が連携した GAP 普及の取り組み

<受賞者> JA 北魚沼 GAP 部会（新潟県）

### －特別賞－

#### ■高校生による生産・加工・販売を通じた幅広い活動を後押しする高度な GAP への取り組み

<受賞者> 山形県立上山明新館高等学校（山形県）

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

#### ■シンポジウム「GAP Japan 2014」

日時：2014 年 7 月 31 日（木） 13 時から 17 時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）

関連ホームページ：[http://jgap.jp/LB\\_06/index.html](http://jgap.jp/LB_06/index.html)

問合せ先：荻野（おぎの） TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp)

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 \_\_\_\_\_ 部署名 \_\_\_\_\_ 御名前 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_